

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	海南市立下津第一中学校	福田 匡
学校所在地		
(〒649 - 0101) 和歌山県海南市下津町下津500-2 Tel 073 (492) 0101 fax 073(492)5561		
担当者名		役職名・担当教科
高岡 亜沙子		教諭・国語科
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校が所在する海南市下津町は、和歌山県の北西部に位置している。みかんをはじめとする柑橘類の産地であるだけでなく、和歌山港とともに特定重要港湾である和歌山下津港を擁し、海と山に囲まれた温暖な気候の中でフルーツ栽培や港湾産業が発展してきた。</p> <p>校区は、南と東では長峰山脈に、北西では下津港を擁する海に接しており、古くより豊かな自然と歴史ある文化に育まれてきた地域である。隣接する下津小学校から進学している。長年小中一貫教育の研究を実施してきた、現在も小学校と現職教育で共に学びあったり、授業研究として互いに参観し合ったり、行事を共同で開催したり交流を続けている。全校の生徒数は少子化の進行により年々減少し、本年度は47名となっている。令和9年度からは、下津第二中学校と統合し、下津中学校が開設予定である。本校では、生徒数が少ないことを利点ととらえ、地域と連携した教育も含め、きめ細かな教育を行っている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 12名	2名 職員 2名	教室・高野山・壇上伽藍・金剛峯寺・奥の院
実践研究テーマ		
郷土和歌山を愛し、先人の想いや、願いを受け継ぐ生徒の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	郷土学習	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習・ふるさと学習・SDGs・地域の未来</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの郷土和歌山について知ることができ、地域の未来や将来についてSDGsと絡めて考える力を育てる。 ・ふるさと和歌山の文化財を大切にし、後世に受け継いでいく心と態度を育てる。 ・「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識を身に着けることで、郷土和歌山に対する理解を深める。 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 12 時間 （「郷土学習」 12 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センター職員による紀伊山地の霊場と参詣道についての事前講座の実施 ・世界遺産マスターや世界遺産センター職員の方々による現地学習 		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1 2	・事前指導 世界遺産センター 土永さんより 本校職員より	・前半は世界遺産について価値や数、有名なものを紹介いただき、後半は県内の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、登録の理由及び経緯などを説明いただき、高野山についての知識を得る。 ・高野山に関する動画を視聴し、現地学習で訪れる場所の概要をつかませる。	・観察
3 4 5 6 7 8	・現地学習	・高野山を実際に訪れ、世界遺産マスターの方々より説明いただきながら見学し、高野山の自然や古の人々の想いを感じ取る。帰宅後、説明いただいた内容や印象に残っていることをレポートにまとめ提出する。	・観察 ・レポート
9 10 11 12	・まとめ学習 新聞作成	・写真などを使い、視覚的にわかりやすく、興味を引くことができる新聞を完成させる。高野山の良さ・魅力が伝わる新聞を作り、後世に伝える意思を持たせる。	・新聞
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>・和歌山在住であるが、実際に高野山を訪れたことのない生徒もおり新鮮な思いで、厳粛な雰囲気も味わうことができた。ふるさと和歌山の魅力をより発見することができた。事前学習を行ったことで、興味・関心を持ち現地学習に臨むことができた。レポートや新聞には、高野山の見どころや価値、歴史、古の人の思いに加え、この遺産を大切に、後世に残していこうとする思いを記した生徒が多く、有意義であったと感じる。現地学習は好天に恵まれ、終始和やかな中にも、驚きや感動があり、時間の過ぎるのが惜しく感じられた。1名の生徒が、家庭の事情で現地学習に参加できなかったことが残念であった。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>・高野山については社会科の学習の中で取り扱ったが、短時間であったため、実際に生徒が高野山を訪れることで、身近なものとして親しみをもって認識することができた。世界遺産マスターの方々には博識で昔の地図なども使いながらときにダジャレなども折り込み、飽きさせない工夫で巧みに引きつけてくれた。生徒たちからも質問しやすい雰囲気を作っていただき、多くの知識を得ることができた。事後のまとめ新聞に「私たちが世界遺産や国宝を守っていくこと、どうやって守るかを考えていくことが大切だと分かりました。」「和歌山にもこんな神秘的な場所があることが知れてよかった。」と記し、価値に気づくことができ、我がふるさとの文化財に強く誇りを持つことができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>・少人数校であるため、予算の関係も含めて本校独自で高野山を訪れることは難しいため、とてもありがたい機会をいただいたと感じる。知識・経験が豊富な世界遺産マスターの方々と一緒に回ることで、興味深くお話を伺い、生徒たちも非常に印象深く受け止めることができた。レポートには「この学習を生かしてこれから自然などを大切にしていこうと思った。」とも記し、自然環境を守るというSDGsの面からも考えることができた。「このような建物や文化を守っていくために私たちが何をすべきかをしっかり考えることができ、とても良い機会となりました。」「今後の世代へと伝えていきたい」ともあり、今後も熊野古道など和歌山県の世界遺産に興味を持たせ、世界遺産や文化財の保全や後世に伝えていく態度を養っていききたい。</p>			

